

教宣 せぶん

熟成されたワインのように

27日支部闘争委員会が開催されました。東京地協が主催する「団地ピラ」行動の一環で、西葛西クリーンタウンや駅頭で1万7000枚のピラをまいてからの集合となりました。議題の中心は、13日に行なわれる支部臨時大会の持ち方、直近の活動報告、今後の行動についての確認というものでした。詳細については、大会で提起・報告されます。

そのなかで19日から20日に行なわれた支部地協代表者会議の様子が報告がされました。「日勤外勤のたたかい」を全損保あげて支援していくことがあらためて確認されたそうです。また、外勤部の分散会では「日勤外のたたかいに敗れば間違いなく自分たちへも同様の攻撃が繰り返される。自分たちの制度や生活をまもる意識で一緒にたたかっていく」ことが確認されたそうです。私たちの「たたかい」に多くの仲間が支援を行なっている現実、私たちの「たたかい」の結果が同じ職種の仲間に見える影響をあらためて感じ、このたたかいの「使命感」を再認識したしだいです。

支部闘争委員会の雰囲気も幾多のヤマを乗り越え、「自分たちの明日を自分たちの手で切り拓いていこう」というムードになってきています。「職場の課所長が団交で確認された労使の約束事を無視した出方をしてくれている。公式なルートで抗議するとともに、こうした不当な対応も世論に訴えたい」「本部に残っている過去に作成したピラを、自宅の周辺や休日を利用して配りたい」「すべての組合員がパソコン上で書類のやり取りができればもっと事務方の作業が軽減できる。年齢や熟練度であきらめてしまうのではなく、たたかう武器として体制を整えよう」などの意見が出されています。「もっとできることはないだろうか」「やらなければならないことをきっちりやり切っていく」というムードが漂っています。年月をかけてワインが熟成されていくように、月日の「経験」を積み重ねて、いま支部闘争委員会はこんな雰囲気になっています。

2月12日の支部臨時大会では全国の組合員が一同に顔を合わせることになります。組織の方針・スケジュールを確認し、意見交換を行い、喫緊課題である「地位確認訴訟」解決にむけ意思統一を行ないます。地方組は宿泊を伴うのでこの日は帰りの時間を気にせず交流がはかれます。また翌日は「東京海上日勤包囲終日行動」が予定されているので、組織としての「一体感」を直に感じながら、会社の「暴挙」を世論に訴えることができます。一人ひとりの一所懸命さがこのたたかいを支えています。一人ひとりの一所懸命さが集まれば、とてつもない大きな力になることを私たちは実感しています。ともにがんばりましょう。